

ごみ・流木調査 本調査のご案内

2013.8.21 矢作川流域圏懇談会海部会

1. ごみ・流木調査の目的

矢作川流域圏懇談会海部会では、昨年度より、下記の目的でごみ・流木調査の実施について話し合いを行い、本年度、プレ調査（実施済）および本調査の実施することとなりました。

つきましては、下記の要項で、ごみ・流木調査 本調査にご参加くださる方を大募集します。皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

- 河川管理者や海岸管理者、市民団体等が流域圏で一体となって調査を実施する
- 出水後のゴミや流木の実態を把握し、情報共有する
- ゴミ等の状況を生物への影響や発生源の観点からも調査
- 自然分解されにくい人由来のゴミとともに、自然由来の流木やヨシの状況などを把握し、情報を蓄積することで、将来的な対策方法と対策場所、地域での対応方法（個別の対応もしくは連携）などを話し合えるような発展を期待する
- 矢作川流域圏での取り組みについて、他の流域の活動者等とも情報交流し、伊勢三河湾全体の漂着ごみへの対応を強化する



矢作川流域の連携のきっかけづくりとする

2. 本調査 募集要項

日 程：2013年9月の出水後3日以内

場 所：矢作川下流域（出水後、事務局の巡視により、場所を決定）

※詳細の日程、場所は、出水後、事務局よりメールリストにて周知します。

（メールリストへの加入が必要になります。）

調査概要：自然由来ごみ（流木など）の量、発生源等の調査

人由来ごみの量、種類、発生源等の調査

※メールリストへの加入希望・問い合わせ先

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6

国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107 FAX 0532(48)8100









E-mail gotou-n85aa@cbr.mlit.go.jp

3. 調査方法

① バンチマーク写真を撮影する

- ・ゴミ等の集積代表地点を 10×10m 枠取りして写真を撮影し、ベンチマークと対比する。

■ バンチマーク写真

| ゴミ袋数 | 見通しの良い状態 | ゴミ袋数 | 見通しの良い状態 |
|-----------------------|--|----------------------|---|
| 20L ゴミ袋数 0【袋】 |  | 20L ゴミ袋数 2【袋】 |  |
| 20L ゴミ袋数 1/4【袋】 |  | 20L ゴミ袋数 4【袋】 |  |
| 20L ゴミ袋数 1/2【袋】 |  | 20L ゴミ袋数 8【袋】 |  |
| 20L ゴミ袋数 1【袋】 |  | 20L ゴミ袋数 16【袋】 |  |

出典：河川ごみ調査マニュアル（国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 平成 24 年 3 月）

② 自然由来ごみをチェックする（調査票(2)-1）

- ・ゴミ等の集積代表地点 10×10m の中にある、自然由来のゴミの発生源を、目視で山、川、川（ヨシ）に分類し、その割合をチェックする。

③ 人由来ごみをチェックする（調査票(2)-2）

- ・ゴミ等の集積代表地点 10×10m の中にある人由来のゴミを 20L ごみ袋に換算して（1×1m に並べる）、ランク 0（0 袋）からランク 10（128 袋）までの 12 ランクで評価する。

■ 目視によるゴミ量等の簡易判定（20L の目安）



出典：河川ごみ調査マニュアル（国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 平成 24 年 3 月）

調査票 (1)

| 基本情報 | | 備考 |
|----------|-----------|---------|
| 調査日 | 平成 年 月 日 | |
| 調査時刻 | 午前・午後 時 分 | |
| 調査地点名 | | |
| 調査地点 k p | () Kp | 河川調査の場合 |
| 調査者 | | |
| 調査地点 | (地点に○) | |

調査票 (2) - 1

| 流木調査項目 | 調査地点 () | | |
|------------------|--|------|--------|
| 流木等の漂着状況 | 発生源別の流木の混在割合 | | |
| | 山 | 川 | 川 (ヨシ) |
| | % | % | % |
| 流木の特徴をチェック | A. 漂着物の状況 (時間経過) | () | — |
| | B. 人工林・自然林、その他の別 | () | — |
| 状況写真 | | | |
| | (遠景) | (近景) | |
| 樹種が判別できたものの名前 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ | | |
| 調査総評コメント欄 | | | |
| 現場で感じた解決のためのアイデア | | | |

流木の特徴をチェック

| | | |
|------------------|---|------------------------------|
| A. 漂着物の状況 (時間経過) | 1 | 樹皮、枝葉が確認され、漂流後間もないもの |
| | 2 | 樹皮等は確認されず、時間をかけて漂流したもの |
| B. 人工林・自然林、その他の別 | 1 | 根こそぎもしくは折れて運ばれてきた樹形のまっすぐな人工林 |
| | 2 | まっすぐな樹形かつ切断面が明確な間伐木 |
| | 3 | 切断面は明確だが、まっすぐでない人工林以外のもの |
| | 4 | 根こそぎもしくは折れて運ばれてきた灌木等 |
| | 5 | その他 () |

※調査票は、実施の結果を受けた改善提案に基づき、改良・反映のPDCAサイクルにて運用。

調査票 (2) - 2

| ゴミ調査項目 | 該当欄にチェック | 調査地点番号 () | |
|------------------------------------|---|--|--|
| 人由来ごみ ゴミの種類 | チェックシート | | |
| | 発見できたごみ | | |
| | 生活系ごみ | <input type="checkbox"/> 1. 飲料用プラボトル | <input type="checkbox"/> 6. 飲料缶 |
| | | <input type="checkbox"/> 2. 食品の包装・容器・トレー | <input type="checkbox"/> 7. 飲料ガラス瓶 |
| | | <input type="checkbox"/> 3. 紙バック | <input type="checkbox"/> 8. ライター* |
| | | <input type="checkbox"/> 4. ふた、キャップ* | <input type="checkbox"/> 9. その他生活系 |
| | | <input type="checkbox"/> 5. 袋類 (農業用以外) * | |
| | 漁業系ごみ | <input type="checkbox"/> 10. 釣り具 (オモリ) * | <input type="checkbox"/> 12. 釣り具 (ルアー等) * |
| | | <input type="checkbox"/> 11. 釣り具 (針、糸) * | <input type="checkbox"/> 13. その他漁業系 (網等) * |
| | 事業系ごみ | <input type="checkbox"/> 14. 木材等 | <input type="checkbox"/> 16. 農業、肥料袋* |
| <input type="checkbox"/> 15. 苗木ポット | | | |
| その他 | <input type="checkbox"/> 17. 硬質プラスチック片* | <input type="checkbox"/> 18. ガラスや陶器片* | |
| | <input type="checkbox"/> 19. 発泡スチロール片* | <input type="checkbox"/> 20. 金属片 | |
| | <input type="checkbox"/> 21. シート、袋の破片* | | |
| 上記以外 | <input type="checkbox"/> 名称: () | <input type="checkbox"/> 名称: () | |
| | <input type="checkbox"/> 名称: () | <input type="checkbox"/> 名称: () | |
| ゴミの量 | ランク () | 目視・写真判定可 | |
| 発生場所の参考記載の有無 | ・住所、電話番号、その他の記載 () | | |
| 状況写真 | | | |
| | (遠景) | (近景) | |
| 調査総評コメント欄 | | | |
| 現場で感じた解決のためのアイデア | | | |

※生物への影響のあるごみ

4. プレ調査の実施結果

海部会 WG にて、ごみ・流木調査のプレ調査を実施しました(ニュースレターvol.3 参照)。

日 時：平成 25 年 7 月 20 日 (土)

活動場所：佐久島白浜海岸

目 的：本調査に向けて、調査票の有意性や実施方法などについて検討すること

■調査風景



■調査結果

- 10m 四方内の流木の割合は、山発生 3%、川発生 3%、川発生のヨシ 94%であった。
- 10m 四方内の人由来ごみは、20L ごみ袋 3 袋分で、内訳は以下のようになった。
- 人由来ごみの中には、ライターなど発生源を推定できるものもあった。

| | No.1 | No.2 | No.3 |
|-------------|---|--|--|
| 写 真 | | | |
| 人 由 来 ご み | <p>【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、キャップ、袋類、飲料缶、飲料ガラス瓶、ライター 等</p> <p>【漁業系ごみ】漁業系</p> <p>【事業系ごみ】木材等</p> <p>【その他】硬質プラスチック片、発泡スチロール片、シート、ガラスや陶器片 等</p> | <p>【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、キャップ、袋類、苗木ポット、おもちゃ、ライター 等</p> <p>【漁業系ごみ】漁業系</p> <p>【その他】硬質プラスチック片、シート 等</p> | <p>【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、生活雑貨、キャップ、袋類、苗木ポット 等</p> <p>【漁業系ごみ】漁業系</p> <p>【事業系ごみ】木材等</p> <p>【その他】硬質プラスチック片、シート、スプレー缶、クッション 等</p> |
| 生 物 影 響 ご み | <p>プラスチック破片(23)、ペットボトルのキャップ(13)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(10)、ガラス破片(6)、食品の包装・容器(6)、空き缶(3)、使い捨てライター(2)、ロープ・ひも状のゴミ(2)、発泡スチロール(1)、ペットボトル(1)、ピン類(1)、ガラス・陶器(1)、プラスチック容器(1)、車両部品(1) 等</p> | <p>プラスチック破片(35)、ペットボトルのキャップ(18)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(14)、ペットボトル(6)、プラスチック容器(6)、ロープ・ひも状のゴミ(4)、タバコの吸い殻・フィルター(3)、漁網(1) 等</p> | <p>プラスチック破片(80)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(20)、ペットボトルのキャップ(7)、ロープ・ひも状のゴミ(6)、木製品(3)、タバコの吸い殻・フィルター(1)、ペットボトル(1)、スプレー缶(1) 等</p> |

みんなに愛される“いい川”“いい川づくり”公開選考会

いい川・いい川づくりワークショップへようこそ！

＊通算16回となる「川の日」ワークショップは、いい川・いい川づくりワークショップとして、
これまでの蓄積を踏まえた大会として歩んでいます。

SINCE 1998

第6回いい川・いい川づくりワークショップ

(※通算16回)

2013年11月2日(土)・3日(日/文化の日)に開催予定！

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

(東京都渋谷区代々木神園町)

主催：いい川・いい川づくり実行委員会

第5回いい川・いい川づくりワークショップは、

2012年9月22・23日に開催されました。

全国からたくさんの方々にご参加いただきました。ありがとうございました！

[表彰結果](#) [大会概要](#)
[エントリー団体\(全30団体\)](#)

＊これまでの大会の概要は、下記よりご覧ください。お問い合わせは事務局まで

「“いい川”とは何だろう」－「川の日」ワークショップは、それを問いかけ、
自由で柔らかにその答えを探っていくための公開選考会という方式のワークショップです。
7月7日の「川の日」を記念した市民実行委員会主催の大会として1998年にスタートして以来、
毎回、全国から50件以上の「これぞ“いい川” “いい川づくり”」という応募があり、
地域の水辺を愛し、育み、見守る400～500人が一堂に会する催しとなっています。

通算15回目となる第5回いい川・いい川づくりワークショップ(2012年)までの開催で、
応募件数は延べ932件となりました。

主催：いい川・いい川づくり実行委員会 実行委員長 宮口としみち 他約100名

＊第5回いい川・いい川づくりワークショップは、[財団法人 河川環境管理財団](#)の河川整備基金の助成を受けています。

＊第5回いい川・いい川づくりワークショップは、[社団法人 関東建設弘済会](#)の助成を受けています。

第5回 いい川・いい川づくりワークショップ

(第15回「川の日」ワークショップ)

7月7日「川の日」の記念行事の一つとして全国の川や水環境に関する市民、行政に呼びかけスタートした「川の日」ワークショップは、第10回記念大会を経て「いい川・いい川づくりワークショップ」として新たに歩み出し、通算15回目の開催となりました。過去14回の大会で応募数は902件となっています。

この大会は、私たちがめざす川や水辺はどんな姿なのか、私たちにとって“いい川・水辺”とはどんなことなのか、自由に柔軟に探っていくこと、各地で活躍する市民・住民・行政に呼びかけ1998年に始まりました。これこそ“いい川”・“いい川づくり”という事例や事業、思いを持ち寄り、その目的、取り組みを発表、議論することにより、少しでも“いい川・いい川づくり”のビジョン、イメージの共有につながれば、やがては日本中に個性豊かな愛着の持てる川や水辺が出現するとの思いからです。今では、全国の8地域で地域大会が独自に開かれ、お隣の韓国の大会も9回を数え、双方の大会への参加、交流が、市民や学生、子ども達の交流に広がっています。

ワークショップでは、さまざまな水辺とともに、山や里、水路や海、下水道や雨水の分野、水循環、防災、まちづくり、福祉、教育など、領域やテーマを広げつつ、子どもたち、大学生、世代を越えたさまざまな人たちが一堂に会し、2日間にわたる驚きと感動にあふれた公開選考会と交流が行なわれます。是非、ご参加下さい。

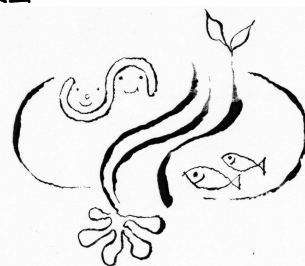
- 日時：2012年 9月22日（土・秋分の日）13：10～18：30 19：00より交流懇親会
23日（日） 9：00～15：30 *時間は予定です

*22日（土）：開会/全体集会/全体発表会（全応募一斉発表）/テーブル選考（一次選考）/全体集会

*23日（日）：復活選考/入選者発表会/全体選考（二次選考）/公開討論会（最終選考）/表彰式

一般参加自由です！

- 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
（メイン会場）国際交流棟 国際会議室(22日)・レセプションホール(23日)
（渋谷区代々木神園町3-1・新宿駅から小田急線 参宮橋駅より徒歩5分）
- 主催：いい川・いい川づくり実行委員会 実行委員長 宮口侗迪 他約100名
- 後援：国土交通省



いい川・いい川づくりワークショップとは？

- 全体会場での全応募者一斉発表に始まり、テーマ別のテーブル選考、復活選考、会場からの意見も交えて行なわれる全体選考会のプログラムで、全てオープンに行われます。選考は以下のような考え方と評価のポイントの基に行われます。新たな評価軸を探り共有するのがこのワークショップの目的です。
 - ◆ 川の「タカラモノ」に光を当て、「いい川」「いい川づくり」とは何かを探ります。
 - ◆ 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
 - ◆ 公開選考会は、おおよそ以下の4つのカテゴリーにおいて総合評価します。
 - 発想・着眼評価：「いい川」をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
 - 関わり評価：地域住民と川との豊かで良好な関わり合いについての評価
 - プロセス評価：「いい川」を育むための市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
 - 計画・技術評価：川らしさの保全や「いい川」回復のために工夫された計画手法や施工技術等についての評価や「いい川」を実現した技術に対し選考を行います。
- 発表では、プレゼンテーション用パネルのほか、自由な表現方法でアピールします。1件3分という限られた時間の中で、工夫を凝らし熱のこもった発表が毎回繰り広げられています。日頃の取り組みの発表、意見交換、参加者同士の交流を通じて、新たな発見や取り組みのエネルギーを分かち合います。

《いい川・いい川づくり実行委員会事務局》 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-20-14-301 NPO 全国水環境交流会
TEL:03-3408-2466 FAX:03-5772-1608 E-mail:kawanohi-2006@mizukan.or.jp

URL: <http://www.mizukan.or.jp/kawanohi/kawanohi.htm>

※過去の大会や関連する大会、エントリー団体も逐次紹介しています

* 第5回いい川・いい川づくりワークショップは、財団法人河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けています。

* 第5回いい川・いい川づくりワークショップは、社団法人関東建設弘済会の助成を受けています。

●第5回いい川・いい川づくりワークショップ タイムテーブル

9月22日(土)：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟・国際会議室ほか

| 日時 | 時間 | 内容 | 場所 |
|---------------|------|--|--------------------------|
| 10:30 ~ | | 実行委員 順次受付 | 403教室 (センター棟 4F) |
| 11:00 ~ 11:50 | 50分 | 実行委員会ミーティング ：ワークショップの進め方、選考の方法等 | |
| 11:50 ~ 13:00 | 70分 | 昼食(各自) ※テーブル・コーディネーター・全体選考・公開 討論・コーディネーターほかミーティング | |
| 12:30~ | | 順次受付(ただし、開場は13:10頃を予定) | 国際会議室 (国際交流棟 1F) |
| 13:15 ~ 13:35 | 20分 | 開会、全体集会(応募者、実行委員他) ・ワークショップの進め方等 | |
| 13:40 ~ 15:20 | 100分 | 全体発表会 ・テーブルAより1団体3分で続けて発表(発表のみ) | |
| 15:20 ~ 15:40 | 20分 | テーブル選考の各テーブルに移動 | |
| 15:40 ~ 16:55 | 75分 | テーブル選考(一次選考) ・各テーブルから2団体を推薦(予定) | 各教室(センター棟 1F・3F・5F 他) |
| 16:55 ~ 17:10 | 15分 | 全体会場(国際会議室)へ移動 | 国際会議室 (国際交流棟 1F) |
| 17:10 ~ 17:40 | 30分 | 全体集会(応募者、実行委員、一般参加者) ・テーブル・コーディネーターによる、テーブル選考結果概要報告 5分×各テーブル | |
| 17:40 ~ 18:10 | 30分 | 韓国「江の日」大会 優秀事例の報告 (3団体、逐次通訳) | |
| 19:00 ~ 20:30 | 120分 | 交流懇親会 ※申込の方(会費制) | レストラン とき (カルチャー棟 2F) |

9月23日(日)：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 レセプションホール

| 日時 | 時間 | 内容 | 会場 |
|---------------|-----|--|-------------------------|
| 9:00 ~ 9:40 | 40分 | 二日目開会・復活選考 【テーブル選考の選外から全体で5~6件を選考予定】 | レセプションホール (国際交流棟 1F) |
| 9:45 ~ 10:45 | 60分 | 入選者発表会 ※テーブル選考からの推薦と復活選考で選ばれた団体 テーブルAより1団体3分で続けて発表(発表のみ) | |
| 10:50 ~ 12:10 | 80分 | 全体選考(二次選考) | |
| 12:10 ~ 13:10 | 60分 | 昼食(各自) | |
| 13:10 ~ 14:40 | 90分 | 公開討論会(最終選考) | レセプションホール (国際交流棟 1F) |
| 14:40 ~ 15:30 | 50分 | 表彰式 講評及び各賞発表、表彰 | |
| 15:30 | | 閉会 | |

* テーブル選考のグルーピング及び各会場は、当日配布するプログラム及び選考資料に記載しています。

* 貴重品以外の手荷物は、両日とも指定の場所に置くことができます。途中の会場移動の際など、持ち物は各自ご注意ください。

* タイムテーブルは当日の進行状況によって多少変更することがあります。予めご了承くださいとともに、スムーズな進行を図るため、ご協力をお願いいたします。

| 賞 | テ- ブル | No. | エントリー No. | 都道府県 | 河川名 | 水系 | 団体名 | いい川・いい川づくり賞名 |
|----------------|----------|-----|--------------|------|---|---------|-------------------------|-----------------------------|
| グランプリ | C | 5 | 304 | 埼玉県 | くろめがわ 黒目川 | 新河岸川 | 黒目川に親しむ会 | 子どもの遊ぶ活動は川の浄化につながるで賞 |
| 準グランプリ | D | 5 | 804 | 宮崎県 | ほうりがわ 祝子川 | 五ヶ瀬川 | 宮崎県立延岡工業高等学校 | 地元の土建屋の専務の情熱が川と工業高校を良くするで賞 |
| 入賞 | A | 3 | 302 | 東京都 | のがわ・ぬくいじんじやのゆうすい 野川・貫井神社の湧水 | 多摩川 | 東京都立多摩科学技術高等学校科学研究部 化学班 | 環境変化にいち早く気付く調査で賞 |
| | A | 5 | 601 | 山口県 | きばがわ 佐波川 | 佐波川 | 水の自遊人 しんすいせんたい アカザ隊 | 川ガキ・防災・障害者支援・宝箱 佐波川のキーワードで賞 |
| | B | 4 | 505 | 京都府 | あまわかこ(ひよしだむ) 天若湖(日吉ダム) | 淀川 | 天若湖アートプロジェクト実行委員会 | アートで魅せた水の魅力、地域と世代をつなぐで賞 |
| | B | 5 | 405 | 長野県 | うえだしぜんいき みずべ 上田市全域の水辺 | | 上田市 上下水道局 下水道課 | 排水口の向こうにホテルが見えるで賞 |
| | C | 3 | 801 | 福岡県 | おんががわ 遠賀川 | 遠賀川 | SWEEP(スウィープ) | 遠賀川で遊んだ川活動、よくぞこれまで継続できたことで賞 |
| | C | 4 | 501 | 大阪府 | よどがわ わやがわ 淀川・寝屋川 | 琵琶湖・淀川 | 摂南大学 エコシビル部 | 関西の水系をエコシビルの若者がつないでいくで賞 |
| | E | 4 | 301 | 埼玉県 | もとあらかわ 元荒川 | 荒川 | 熊谷市ムサシトミヨを守る会 | トキにしないで賞 |
| | F | 1 | 502 | 大阪府 | みず かいろう どうしまかわ ときほりがわ 水の回廊(堂島川、土佐堀川ほか) | 琵琶湖・淀川 | 大阪府都市整備部河川室 | 光で心環つかみ川の再生につなげま賞 |
| | F | 2 | 806 | 熊本県 | 九州及び韓国全羅北道の水辺 | | 日韓大学生交流サポーターズクラブ | 未来へ技術を繋ぐために交流の輪を広げていきま賞 |
| | F | 4 | 803 | 鹿児島県 | せんだいがわ 川内川 | 川内川 | 国土交通省九州地方整備局 川内川河川事務所 | 地域の宝を未来に残すために悩んだ結果で賞 |
| 入選 | A | 1 | 807 | 福岡県 | ひいかわ むろみがわ 樋井川・室見川 | 樋井川・室見川 | はかたわん海援隊(福岡大学) | 若者の地域活力が博多湾をきれいにするで賞 |
| | A | 2 | 403 | 静岡県 | わらしながわ 粟科川 | 安倍川 | 全国環境ボランティアリーダー会 | 地域を物語るお地藏さまに導かれま賞 |
| | B | 1 | 503 | 大阪府 | きんき みずべ 近畿「子どもの水辺」 | | 近畿「子どもの水辺」交流会実行委員会 | 子供の集う水辺は夢のある水辺になるで賞 |
| | D | 2 | 507 | 滋賀県 | しらとりがわ 白鳥川 | 淀川 | 白鳥川の景観を良くする会(略称:景観隊) | リタイヤ世代が5kmの川の人生の花道を拓くで賞 |
| | E | 2 | 604 | 岡山県 | おおのがわ 大野川 | 旭川 | 御津の「みどり」と「清流」を守る会 | クマタカに孫に緑つなぎま賞 |
| | E | 3 | 401 | 長野県 | すわこ 諏訪湖 | 天竜川 | 下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会 | 千歳のご先祖から赤ちゃんまで木遣りを合唱賞 |
| | E | 5 | 506 | 大阪府 | あかたがわ 芥川 | 淀川 | 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク | フワフワ孵化したで賞 |
| | F | 5 | 508 | 滋賀県 | ぜんこうじかわ 善光寺川 | 日野川 | 竜王清流会 | 地域力を高めるのは中高年で賞 |
| 森 清和賞 | F | 2 | 806 | 熊本県 | 九州及び韓国全羅北道の水辺 | | 日韓大学生交流サポーターズクラブ | |
| 広松 伝賞 | E | 4 | 301 | 埼玉県 | もとあらかわ 元荒川 | 荒川 | 熊谷市ムサシトミヨを守る会 江守 和枝さん | |
| “いい川”技術 総合賞 | F | 4 | 803 | 鹿児島県 | せんだいがわ 川内川 | 川内川 | 国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所 | |
| “いい川”技術 奨励賞 | D | 5 | 804 | 宮崎県 | ほうりがわ 祝子川 | 五ヶ瀬川 | 宮崎県立延岡工業高等学校 | |
| “いい川”技術 奨励賞 | E | 5 | 506 | 大阪府 | あかた かわ 芥川 | 淀川 | 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク | |
| 国際 技術奨励賞 | 特別発表 | | | 韓国 | 泰安(テアン)海岸 | | 泰安(テアン)海岸国立公園 | |